

# 徳島市地域振興施設（道の駅）整備基本計画策定委員会

## 第1回委員会（議事要旨）

### ■委員長選出について

- ・ 山中委員を選出
- ・ 副委員長として 藤村委員を指名

### ■道の駅整備の経緯等について

#### 【事務局】

- ・ 道の駅整備の経緯等についての説明

#### 【A委員】

- ・ 防災面についてはどう考えているか。

#### 【事務局】

- ・ 東日本大震災以降、道の駅にも防災機能を持たせるものもできている。
- ・ 機能については地域ごとでの整備を考慮しており、備蓄倉庫や避難施設等こういったものが必要であるかは、この委員会の中で議論いただきたい。

### ■議題

#### ① 道の駅概要について

#### 【事務局】

- ・ 道の駅概要についての説明

#### 【B委員】

- ・ 徳島県の道の駅は何箇所あるのか。またこれからの計画についてご教示いただきたい。

#### 【事務局】

- ・ 徳島県内に15の道の駅がある。徳島市内においては、今回の計画で初めて設置することとなる。
- ・ その他近隣では神山町、勝浦町、阿南市、美馬市において県道沿いに検討が進んでいる。

### 【B委員】

- ・ 徳島は京阪神からの来客が多い中、国道 11 号沿いのほうがよいのではないか。
- ・ 国府になった意味はあるのか。

### 【事務局】

- ・ 市の北部も含めた郊外で調査・検討を進めてきた中で、今回、徳島市における道の駅整備第一号として国府で整備計画を作るに至っているが、国府にとどまらず今後も市郊外において必要な場所への設置について検討を続けていく予定である。

### 【C委員】

- ・ 近年、道の駅に似た直売所やコンビニが大きくなったようなものもあり、間違えることもあるが、仕組みとしては道路利用者の休憩所としての利用が主であり、目的地があるような都心には必要ないという考え方が最初であった。
- ・ 道の駅はもともと、何も無い国道の中間にドライバーの休憩施設を整備したのが始まりであった。

## ② 整備計画策定の方針について

### 【事務局】

- ・ 整備計画策定方針の説明

### 【C委員】

- ・ 整備方針をこれから考えていくにあたって、どういう情報が必要かということをご提案いただきたい。

### 【A委員】

- ・ 徳島市として初めての道の駅であるため、取り扱う品は、徳島市の西部地区のものだけに限定せず、徳島市の特産物や工業製品を扱うような徳島市全体を含めた位置づけとして整備していくほうが良いと考えている。

### 【C委員】

- ・ 資料は地域課題のことが主となっているが、市として国府地区をどのように位置づけて考えているのか。

### 【事務局】

- ・ 国府のものだけを紹介するというような限定的なものではなく、市の地場産業、観光においても国府を拠点として市全体の観光も PR していきたいと考えている。

### 【事務局】

- ・ 道の駅整備というのはあくまでも国に認定されての話となるが、徳島市としては地域振興施設という位置づけで整備を進める考えである。
- ・ 国府地区の選定理由としては用地取得の問題やこれからの発展性が挙げられる。
- ・ 本来はこうした施設が市内に数箇所あれば一番よいと考えているが、中心部界限には民間の施設がすでに整備されている中、国府町には民間施設がないといったこともあり、この地域で計画を進めていきたい考えである。
- ・ 施設の位置づけとして徳島市を含めたものとする考えについてはもっともな話である。徳島市全体をアピールできる地域振興施設としていきたいという考えもあり、欲張りすぎず地域性を重要視してやっていきたい。
- ・ この委員会の中でご審議いただき、地域に喜ばれるもの、徳島市として今後発展するのにふさわしい地域振興施設としていきたい考えである。

### 【D委員】

- ・ 道の駅のオープンはいつ頃を計画しているか。

### 【事務局】

- ・ 施設整備を道路管理者との一体型か市単独型のどちらで行うかによって異なる。
- ・ 一体型整備となった場合は、国との協議も必要となるため、現時点で具体的にお伝えできない。
- ・ 市単独で整備する場合は H31 年を予定している。

### 【D委員】

- ・ 賑わいのある道の駅を実現するためには、道の駅を訪れるお客様の目的を分類する必要があると考えている。
- ・ 1つ目は休憩を目的とした利用。2つ目は余暇・レジャー（農業体験、地域食材を使ったレストランや地域特産品等）を楽しむ目的とした利用。3つ目は毎日の買い物の場に位置づけている地域住民の方の利用である。
- ・ 道の駅を安定して経営していくには、この3つ目の地域住民の利用が一番重要である。観光客はシーズンや天候に左右されるが、地域住民であれば、その日の料理の食材を買うために直売所に訪れる。そんな地域住民の利用を増やしていくためには、毎日の買い物の場として農産物直売所を充実させる必要があると考えている。
- ・ 先ほど施設オープンの時期を伺った理由としては、現在、国府地域に出荷するだけの十分な農産物がないのであれば、3~4年をかけて栽培振興を行う必要があり、これが難しいのであれば、国府も含めた市全域に生産者の会員を求めるといったことも考えていく必要があると考えているからである。
- ・ これまで道の駅整備に関わってきた経験から、道の駅整備を成功させる方法のひとつとして、国府地域の栽培に目を向ける必要があると考えている。

### 【C委員】

- ・ ご意見の通り、ポイントはその 3 つの条件を一体で整備することである。どれか 1 つならスーパーや単なるトイレでよい。
- ・ 空間として一緒になっていることが重要である。

### 【F委員】

- ・ 国府町には霊場が 4 つあり、地元を支えながら今日までやってきた歴史があることから、四国霊場の振興の文言（地域の核）としては適切と考えている。
- ・ 今年は開創 1200 年ということもあり、休日には多くの来場者がやってきており、四国八十八か所が世界遺産にでもなれば大きな弾みとなる気がしている。
- ・ 歴史・文化という意味では市の考古資料館があるため開催されている企画展等の総合情報交換ができればよい。
- ・ 物を買うに行くだけでなく、道の駅を見に行くことが目的となるような、個性があって面白い建物にするという工夫があっても良いと感じる。
- ・ 個人的には道の駅は物を買うに行く以外にも情報を得る場として利用することも多いため、情報を大切にできるコーナーの必要性を感じる。
- ・ 「恋人の聖地」のようなその場所に行って写真を撮ることが楽しみ、行くことが楽しみと言われるような施設になれば良いと考えている。皆に愛される道の駅としたい。

### 【G委員】

- ・ 利用者の立場として、トイレ休憩や授乳施設が完備されたものが良い。SA では地域の特色のあるメニューを楽しみにして目的地を目指すような利用の仕方もあり、道の駅においても、同様の工夫をもって地域の特色が強く、できてよかったといわれる道の駅としたい。
- ・ お遍路の観光バスが止まっているため広い駐車場が必要と感じている。
- ・ 歩きお遍路が増えている中、マイカーの利用者、若いカップル、外国人の利用も増えているのでそういった人に対応した施設となれば良いと考えている。

### 【A委員】

- ・ 少人数での歩きお遍路が多くなっており、地域住民のウォーキングも盛んなため、足湯のような休憩施設があると良い。

### 【B委員】

- ・ 四国八十八か所霊場をひとつの目玉とするのは良いと考えるが、何もかもとなると中途半端になるためある程度は絞ったほうがよい。
- ・ 場所については確定していないのか。

### 【事務局】

- ・ 現在は国府町の南環状道路上というところで進めており、将来的に南環状道路が高架

になると延命周辺にインターチェンジができるため、側道・高架部分の兼ね合いも含めて、そのインターチェンジ付近に整備したいと考えている。

- ・ 地元と協議中でもあるため、場所が確定ということではない。

#### 【H委員】

- ・ 商工会の方でも以前から国府町活性化について取り組んできているが、10年ほど前は400程度であった商工業者の会員は、現在300程度と少なくなっている。昨今、6次産業が話題となっている中、商工会としても6次産業的なことをやっていきたいと考えていた。場所は決まっていなかったものの、国府町を選んでいただいたことをありがたく思っており、国府町に基盤を置き活動していくことが地域活性化に繋がると期待している。
- ・ これまではウォーキングのような一過性のイベントに取り組んできたが、今回は長期的に地域振興施設で営業ができ、農業も栄えることで皆に喜んでいただける施設ができるということにも期待をしている。
- ・ 商工会がどのように道の駅に関わっていくかも考えていきたい。できることなら地元中心に関わって行きたいが、連合会を通じてイベントの開催も可能と考えている。

#### 【I委員】

- ・ コンセプトの中で重要になってくるのは食であり、直売所ではないかと考えている。
- ・ 徳島市農協では徳島市に規模は大きくないが、現在3店舗ほど直売所を経営している。平成20年には徳島県下に大小含め120店舗程あった直売所が、昨年の調査では100店舗を切っており、20店舗程減少している。基本的には個人では運営が厳しい状況であり、JAが携わっている直売所は経営状況が非常に良い状況である。
- ・ 経営状況が良い理由として、会員の品揃えが非常によいということ、徳島市農協については80品目程取り扱いがあるということが挙げられる。その強みがあるため経営状況が良いということもあり、今後の計画を進めていく中で直売所がポイントとなってくると考えている。
- ・ このあたりは地域と連携を持った中で、徳島市農協としてアドバイスもしていきたいと考えている。

#### 【J委員】

- ・ 主婦の立場として、食べ物や地域の楽しみを体験したいと感じている。
- ・ 徳島市で始めてできる道の駅であるなら、国府だけでなく徳島市のことも紹介できるコーナーを設けてほしい。
- ・ 訪れて楽しめる場所であることが一番である。

#### 【C委員】

- ・ 日和佐の時は皆で議論してアイデアを出し合う中で、足湯にまとまった。何かひとつ

ポイントとなるような魅力的なものを整備できればよいと考えている。

- ・ 持続可能な運営を行っていくためには、きちんと勉強していく必要がある。次回は事例視察で成功事例を見ることになるが、合わせて失敗事例も参考にすることで「してはいけないこと」も示していただきたい。
- ・ 南環状道路の今後についても、考慮しておく必要があると考えている。震災や何かが起きたときに、市内を抜けずに西と南が繋がる機能はかなり期待されるものであり、市としてもその中心に拠点を持つ意味を都市計画の全体プランの中でどのように位置付けするかを考える必要がある。都市計画マスタープラン作成の際は、国府は南環状線・西環状線が国道192号に交差しており、サブセンターとして位置づけているが、道の駅はそこから少し離れたところに位置し、我々が生活拠点と呼んでいる周りの集落の人たちが道の駅へ行けば何とかなる、いろいろなものが集まり、あるいはバスがやってくる周辺住民の生活拠点として機能するよう整備していいなと思う。
- ・ 東日本大震災時においては、都心部から外れたところに位置する「上品の里」（石巻市）が、都心を抜けることができない状況の中、中心部の外側からバックアップする大拠点となった例もある。周りに何も無いように見えるけれども生かされる場合もある。全体としてあの場所をどう位置付けしていくかを市としても整理していただきたい。
- ・ 以上を踏まえ、周りの道の駅がどういう状況かをきちんと調べるのが重要であり、コンセプト、規模、運営状況を調べた上で、そこの差別化、距離感をきちんと整理する必要がある。南環状道路ができると状況は変わるが、現在の状況を整理していただきたい。
- ・ お遍路の来場数もお寺に確認する等してきっちりと押さえておく必要がある。
- ・ 運営を考える上では数字をきっちり押さえておくことが重要である。

#### 【A委員】

- ・ 運営の主体や構成が重要だと考えるので、それだけを議論する場を設けてもよいと考える。

#### 【C委員】

- ・ これについても他の事例等を参考にどんなやりかたがあるのかを整理するとともに、実際は地元の方々を含めてどういう方プレイヤーとして参加していただけるかについてもかかわってくるため、そのあたりも含めて勉強しながら進めていく必要がある。

#### 【H委員】

- ・ 策定委員会ではどこまでを決めるのか。

#### 【事務局】

- ・ 内容についてはこのあとの全体的なスケジュールで説明を行う。

### ③ スケジュールについて

#### 【事務局】

- ・ スケジュールの説明

#### 【C委員】

- ・ 道の駅を整備するにあたって基本的な方向性を決めて、議会の承認を得るとというのが今回の目的という理解でよいか。その後、市として考えていることはあるか

#### 【事務局】

- ・ 基本計画がまとまり、議会に説明し規模が決まったなかで、運営部分について一歩踏み込んだ検討を行う予定である。検討については、今の委員の皆様で行うか具体的に現場で作業している方をお呼びするかは今後の検討になります。

#### 【C委員】

- ・ まずは整備手法を決定していくことが重要であるが、市としては基本的にどのようなのを作りたいと考えているか。

#### 【事務局】

- ・ まずは当委員会の中で、基本計画の素案をまとめていただき、その素案を国土交通省に提出し、検討いただく。そこで一体型となるのか単独となるのかの方向性を決めた上で、具体的な内容を検討していきたいと考えている。

#### 【D委員】

- ・ 九月中旬の第三回の委員会では動線・ゾーニングあるいは施設規模の検討が記載されているが、九月中旬にこのような内容を検討するとなれば、第二回の内容が重要になってくる。
- ・ 動線・ゾーニング・施設規模の検討については図面を整理いただけるのか。

#### 【事務局】

- ・ 敷地全体での配置計画（ゾーニング）の整理を想定している。
- ・ 必要な導入機能の整理は行うが、個々の施設規模についてはもう少し具体的話になってからの検討と考えている。

#### 【D委員】

- ・ 足湯をどこに配置するのか、レストランはどのようなタイプのレストランでどの場所に配置するかなどを第3回の委員会で決めないと、国の方に素案は提出ができないのか。

#### 【事務局】

- ・ そういう細かい内容は不要で、どういう機能を盛り込むとかいうことが決定できればよい。

**【C委員】**

- ・ 国道との接続状況や全体の施設規模は示す必要がある。

**【D委員】**

- ・ 案については、次回の委員会でいくつかの候補が用意されているのか、それとも委員会の中で全部議論し考えていくような流れになるのか。

**【事務局】**

- ・ 駐車場については前面道路の交通量で決まってくるため現在の条件で整理することは可能である。
- ・ その駐車台数を基に決まってくる施設規模についても示すことが可能であり、他事例との比較をしていただけると考えている。

**【C委員】**

- ・ 国がどういう形で道の駅の整備に関わっていくのかを整理することが今後のポイントとなってくる。

**【A委員】**

- ・ 現在想定している交通量はどの程度か。

**【オブザーバー】**

- ・ 南環状道路の計画交通量の推定はしている状況である。
- ・ 通常は近隣同様施設の前面道路交通量に対する立ち寄り率等を参考に、計画交通量に対して利用台数を決めている。
- ・ 南環状道路には高架部分と側道部分があるため、施設規模を決める交通量の整理については、今後検討を進めていこうと考えている。

**④ 事例視察について****【事務局】**

- ・ 事例視察についての説明

以上をもって終了とする。